

# 保健教育学習指導案

指導者 後藤 美由紀

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第2校時(10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第3学年1組 計39名(男子17名, 女子22名)
- 3 場 所 中学校3年1組教室
- 4 単 元 名 ピンチに使えるストロングポイント
- 5 単元について

本単元は、生徒が学校での生活や学習の場面で、より主体的に活動するために必要な自己肯定感・有用感などを高めたい。また、他者と協働して活動することを通して自己を肯定的に受け入れることを促し対人不安を軽減することをねらいとする。

本校では、中学校入学後、進学に伴って小学校と異なる集団で生活することや小学校とは異なる学習の中で、対人関係や学習に関する不安から友人関係のトラブルや学力不振による集団への入りづらさを感じている生徒が保健室に来室する実態がある。そういった生徒についてどのような支援ができるのかを数年前から隣接の小学校との共同研究の中で探ってきた。保健室で得られた生徒の状況や困り感を学級担任や学年の教員と共有し、学級活動や総合、道徳の時間を使って、個のコミュニケーションスキルの向上や自己・他者理解を深める活動を取り入れた授業や、グループワークにおける肯定的なコミュニケーションの体験を通して生徒自身が自他の心の健康を保持増進できるための授業を行っている。

本学級の生徒は、1年生で自他のコミュニケーション傾向を認識し、アサーションを含むよりよいコミュニケーションを学ぶ授業を2時間、2年生でエゴグラムによる自己理解と自分の強み(ストロングポイント)をグループワークにより気づく授業を2時間受けている。いずれも、学年の教員と連携して養護教諭が単独で学級単位の授業を実施した。その中で、授業前後に実施した自己肯定意識尺度の測定結果や、授業で用いたワークシートへの記述などから得られた個や集団の課題や実態などを学年の教員やその他の教員とも共有することで、経年での生徒の成長も共有できている。

今年度の指導にあたっては、これまでに得られた成果や課題をふまえ、自分の強みに気づくだけでなく、実際の学校生活や対人場面で活用することができるよう、具体的な活用場面を想定し、実践意欲を高めることで対人不安の軽減につながるようにしたい。

## 6 単元の目標

- (1) 現在の自己を肯定的に評価し、ストロングポイントとして言語化することができる。
- (2) 学校生活の中でストロングポイントが活用できそうな対人場面を想定することができる。
- (3) グループでお互いのストロングポイントを見つけるために意見を出し合うことができる。

## 7 指導計画(全2時間)

時	学習内容
1	今の自分のストロングポイントを見つけよう
2	ピンチに使えるストロングポイント(本時2/2)

## 8 本時の目標

自己の肯定的評価を言語化したストロングポイントを生活の中で実際に使う場面を想定することができる。【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	自分のストロングポイントを使う場面をより具体的に想定できている。
Ⅱ	自分のストロングポイントを見だし、活用する場面を想定できている。(評価基準)
Ⅰ	自分のストロングポイントを見だすことができているが、使う場面は想定できない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の実態を把握するために、事前に自己肯定意識尺度の測定を行い、その結果を授業の展開に反映させる。【授業構想力】</li> <li>○ 生徒ら自身がイメージする学校生活におけるピンチの場面を複数出し合うことにより、個々のストロングポイントを活用することのできる場面の選択肢を増やす。【授業構想力・実践力】</li> <li>○ 他者理解を深めるために、肯定的な意見を出し共有するグループでの活動を設定し、授業後の学級活動でも安心感が持てるようにする。【授業実践力】</li> </ul>	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
1. 前時の振り返りをする。	○ 変わらない、新たな発見があった、など挙手させて自己の内面に意識を向ける。
○○ (ピンチ) に使えるストロングポイント	
2. ストロングポイントを使うことの意味を考える。 ※定義：人が活躍したり最善を尽くすことを可能にさせる特性	○ 実際に使ったことがあるかを問い、意見が出なければ○○に入る言葉を考えるよう促す。
3. 学校生活の中での自分や友達がピンチになる場面をグループで出し合い、それを全体で共有する。 Q.学校生活の中でどんな場面がピンチになると思う？思いつく「ピンチ」の場面を考えてみよう ・忘れ物をした ・友達とけんかした ・LINEで悪口を言われている	○ 自分の経験から挙げるよう促すと自己開示を求めることになるため、自分だけでなく友達のピンチも含め、遭遇しうる場面を自由に考えて挙げるよう問いかける。 ○ 意見が出なければ、補助としてイラストを添えた場面を例示する。
4. 3で例示した場面を用いて、どのようなストロングポイントがどう活かせるか、グループで意見を出し合う。	○ 他者のストロングポイントに着目したり、客観的な立場で考えたりすることで活動5.の準備となるようにする。
5. 自分のストロングポイントとそれを使う場面を考えてワークシートに記入する。	◆ 具体的な場面が想定できる。【思考・判断・表現】
6. 5.で出したものを全体で共有する。	○ 全体で紹介する形で発表を促す。 ○ 時間や全体の雰囲気によっては、そのまま感想記入に入る。
7. 本時の感想を書く。	

※（参考）第1時

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 長所と短所を知ることの意味について考える。 ・高校進学に向けて ・何を頑張るか、目標を立てるため  2. 2年時に見つけたストロングポイントを振り返り、それらの多くが才能や能力ではなく性格など対人場面で見える強みであることに気づく。	○ 授業の中で安心して発言できる雰囲気を作るため、肯定的な意見も否定的な意見も同じような反応で受け入れながら板書する。  ○ 2年時のストロングポイントをワークシートに印刷しておく。 ○ 参考資料として「24の強み」を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             今の自分のストロングポイントを見つけよう           </div>	
3. 2年時からの自分の変化について考え、今の自分のストロングポイントをワークシートに記入する。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">             成長したこと              できるようになったこと              苦手ではなくなったこと           </div> 4. 友達の持っている、また自分の欲しいストロングポイントについてグループで話し合う。  5. 本時の感想を書く。	○ 変化を肯定的に評価できるよう、追加の視点を授業者から提示する。 ○ ワークシートに記述できていない生徒に声をかけながら机間指導を行う。 ◆ 1つ以上ストロングポイントを書くことができる。【思考・判断・表現】  ○ 各グループで活動に参加できていない生徒に声をかけながら机間指導を行う。

クリストファー・ピーターソン『ポジティブ心理学入門』春秋社 2012 P.150

創造性	好奇心	向学心	柔軟性	大局観
誠実さ	勇敢さ	忍耐力	熱意	
親切心	愛情	社会的知能		
公平さ	リーダーシップ	チームワーク		
寛容さ	謙虚さ	思慮深さ	自制心	
審美眼	感謝	希望	ユーモア	スピリチュアリティ